



部族民通信 人類学 Youtube講座

2022年10月~23年7月期

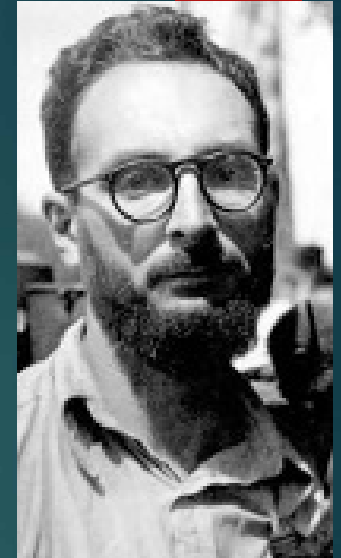
部族民通信 人類学講座 レヴィストロースを読む

構造人類学

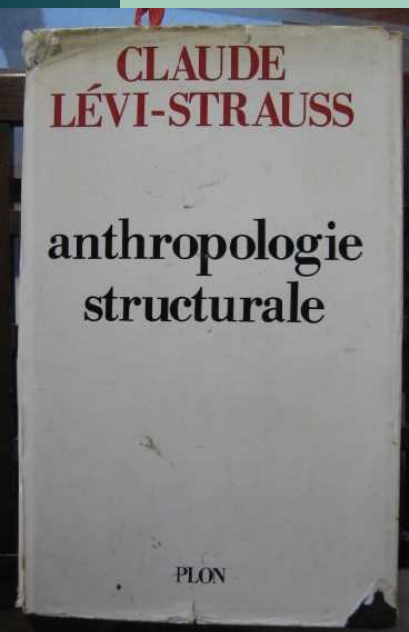
Anthropologie Structurale

渡来部須万男

ホームページ WWW.tribesman.net



Claude Lévi-Strauss
1909~2009
(Bororo族調査時、1936年)



人類学講座

- 1 悲しき熱帯61頁から マルクス主義、精神分析、現象論の批判（10月12日）
- 2 野生の思考第9章 サルトル批判 全4回
（10月19日～11月9日）
- 3 親族の基本構造 近親婚禁止、文化の創生 財の交換継承
Murngin族の婚姻形態（11月16日から4回を予）
番外 女狩人Univoque/Equivoque金魚鉢法則（2023年1月）
- 4 構造人類学の紹介（2023年2月から）
4-1 序制度の由来（14日） -2神話の構造人の由来
（28日） -3出来事の由来
- 5 ラカン精神分析とレヴィストロース構造人類学（23年4月から予）



渡来部須万男
部族民通信

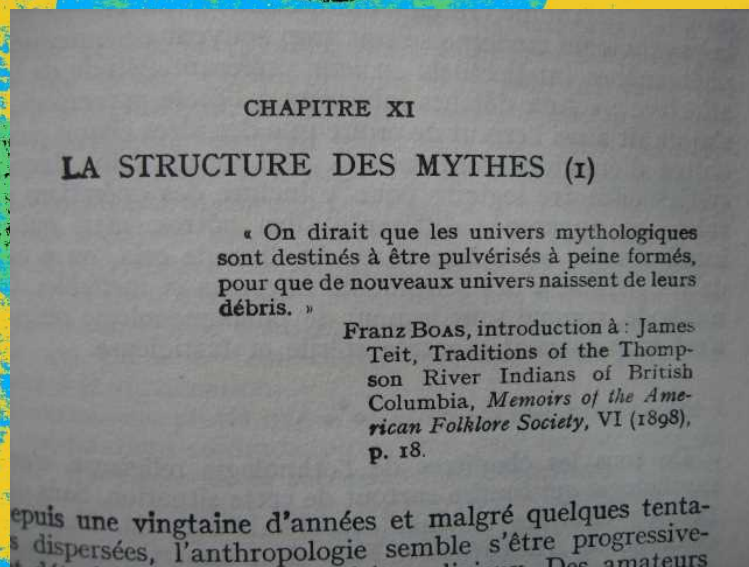
レヴィストロース著
構造人類学Anthropologie
Structurale 神話の構造
人の由来

オイデプス神話
生まれの始まりは
たか女の股か

ヒトの生
砂に湧い



レヴィストロース著 構造人類学Anthropologie Structurale



本書AnthropologieStructurale
と神話の構造章題の頁

本投稿 (Youtube) 内容

1 序文、本書の立ち位置

人類学に於いての構造主義、社会制度の構造はなにか(社会の由来2月14日)

2 人は砂から生まれたか、女の股からか (人の由来、エディプス神話の解析2月28日)

3 出来事は起きたか絵空事か (出来事の由来) となります。

神話の解析

エディプス (Œdipes) 神話

理由 :

多くが筋を知る

他地域にも共通する構成

今も語り継がれる

(ソフォクレスからフロイト)



伝ソフォクレス
(ネットから)

エディプス (Ædipes) 神話

カドモス

エディプス (Ædipes)

アンティゴネー

3の語りに分かれる

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

カドモス神話；ネットサイト (greek-myth.info/Athènes/Cadmus.htm) から抜粋

エウロペーはカドモスの妹、牡牛に化けたゼウスに拐かされ、牛の背に乗って出奔する。カドモスは行方を追うも叶わず疲れ果てる。「もう、エウロペーを探すのは止めよう」アポロンの神託を伺う。「牝牛を見つけたら後をつけ足を止めた場所に街をつくり、テーバイと名付けよ」カドモス外に出ると牝牛が歩いている。牝牛を追う。牝牛はパノペーの野に足を止めました。カドモスは大神ゼウスへの祭壇をつくり、捧げものを用意した。洞穴から大蛇が現れ、鎌首を持ち上げた。高さは木よりも高く、目は炎のように光り口は三又の舌を出す。家来たちは大蛇の毒牙にかかり殺された。



カドモスは大蛇を仕留めその歯を大地に巻いた。スパルatoi軍団が地から抜けでて互いに殺し合い、残った5人の協力を受けカドモスはテーバイを建設する。カドモスと妻ハルモニアは忌み嫌われ、テーバイを去った。カドモスは「蛇が神々にとって大切ならば、蛇になりたい」。体は蛇に変身した。「私も運命をともに」ハルモニアも蛇になって森で暮らす。

(牡牛に化けたゼウスに拐われるユーロペ
魅力的な絵はネット採取、著作権について
は不明。乞うご指摘)

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

エディプス神話（Wikipediaから抜粋）；

ライオスはカドモスの曾孫エディプスの父。汝の子はお前を殺し妻（子の母）を娶る—神託を受けた。生まれた子の足を針で貫き（エディプス=腫れた足の語源）家臣に山に捨てろと命じた。家臣は羊飼いに渡し、羊飼いはコリントス王に預けた。成長して「父を殺し母を知る」神託を知り、出奔する。知り、出奔する。

旅の最中、ライオスが前方から現れた。エディプスに道を譲るよう命令し、これに従わぬをみるや、彼の馬を殺した。怒ったエディプスはライオスを殺した。エディプスは自分が殺した相手が誰であることを知らなかった。

スフィンクスは女面にして胸と脚と尾は獅子、鳥の羽。ピーキオン山頂に座し、通るものに謎を掛け、解けぬ者を喰らっていた。謎は「朝には四つ足、昼には二本足、夜には三つ足で歩くものは何」

エディプスとスフィンクス



人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

テーバイ人たちは、「謎が解かれた時スピックスの災いから解放される」との神託を得ていた。誰も解くことは出来ず、多くの者がスピックスに殺された。テーバイに来たエディプスはスピックスに答えた。「人間である。人間は幼年期には四つ足で歩き、青年は二本足で歩き、老いては杖をついて三つ足で歩く」謎を解かれたスピックスは身を投じた

エディプスはテーバイの王となった。実の母であるイオカステを娶り、子をもうけた。男児はエテオクレースとポリュネイケース、女児はアンティゴネーとイスメーネー（英語版）。

エディプスがテーバイの王になって不作と疫病が続いた。デルポイに神託を求めたところ、「ライオス殺害の穢れのため、殺害者を捕らえテーバイから追放せよ」という神託を得た。

エディプスはそこで過去に遡って調べを進める、三叉路でのいざこざであると知る、自分がライオス王の子、母との間に子をもうけたこと、神託を実現してしまったことを知る。イオカステは自殺し、エディプスは絶望して自らの目をえぐり、娘と共に放浪の旅に出た。（一部をソフォクレス伝に合わせ改編した）

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

エディプス、盲目の彷徨 Jean Marais

写真はネットから

(オルフェとも伝わる)



人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

アンティゴネー（Wikipediaから抜粋）；父エディプスが自分の出生の秘密を知って目を潰した後、イオカステの兄弟クレオンに追放されると、妹イスメネーとともに父に付き添って諸国を放浪した（ソポクレス『エディプス』）。

父の死後テーバイに戻ったがポリュネイケースはテーバイの王位を取り戻すべくテーバイに攻め寄せる。攻め寄せた軍はことごとく打ち破られ、兄弟エテオクレスと相討ちで戦死。

クレオンは反逆者である彼の屍を葬ることを禁じるが、アンティゴネーは城門を出て兄の死骸に砂をかけ埋葬とした。彼女は捕らえられ、地下の墓地に生きながら葬られ自害し婚約者であったクレオンの息子ハイモーンは彼女を追って自刃した(Wikipedia)。



(左はレントン画のアンティゴネー、ネットから)

神話の前提を語る

Si les mythes ont un sens, celui ne peut tenir aux éléments isolés qui entrent dans leur composition, mais à la manière dont ces éléments se trouvent combinés.

あらゆる神話は一の意味を持つ。それは神話各節に入り込んでいる訳だから、孤立することはない。それら要素が繋がりを保ち構成される

Le mythe relève de l'ordre du langage, il en fait partie intégrante ; néanmoins, le langage tel qu'il est utilisé dans le mythe, manifeste des propriétés spécifiques. Ces propriétés ne peuvent être cherchées qu'au-dessus du niveau habituel de l'expression linguistique ; autrement dit, elles sont de nature plus complexe qu'on rencontre dans une expression linguistique de type quelconque. (Page 232)

神話は言葉の仕組みから成り立つ、すなわち統合化するのである。そして神話に用いられる言葉にはそれぞれに特有の性格（propriétés）が紐付けされる。この性格を求めるには、平素に用いられる言語的表現の上層にそれを探さなければならない。別の言い方をするといかなる言語言い回しよりも複雑な構成を取る。

1 Le mythe est formé d'unités constitutives

神話（の語り）は連続性を持つ

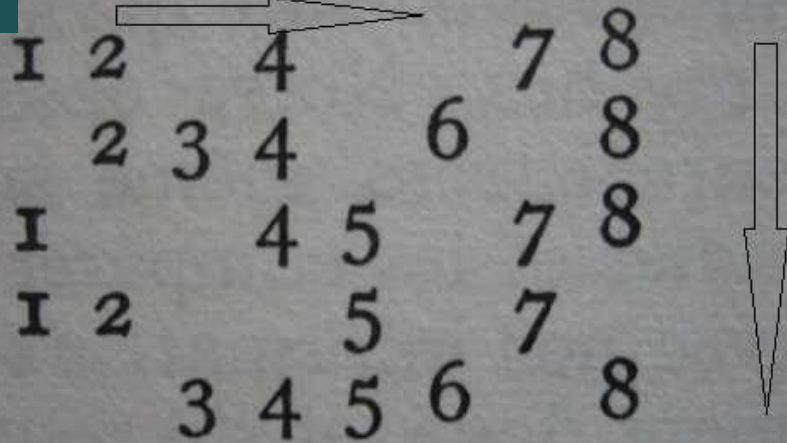
2 Ces unités constitutives impliquent la présence de celles qui interviennent dans la structure du langage, à savoir les phonèmes, les morphèmes et les sémantèmes.

この連続性は言語構造と同一である。すなわち音素、語素、意味素（phonèmes, morphèmes, sémantèmes）

のちに出版される神話学 « mythologie » では上の用語を articulation»分節、 propriétés 登場物（者）、code（符丁）、schème（図式）に統一

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

筋道の流れ



神話
の異
聞形
(Vari-
antes)

1~8の横の矢印は神話
の筋道
縦は神話の異聞形

レヴィストロースによる神話分析は、要素
(propriétés) 筋立て (code) に分解し、訴えか
けスキームschèmeを追求する手法と言える。

この手順とはいくつもの異聞形を取り込み、神話
群を総体として囲い込むにほかならない。「元々
の筋、オリジナル版は一体どのようになるのか」
に囚われることは無い。

« le mythe reste mythe aussi longtemps qu'il
est perçu comme tel » 永く語られるままに神話
は神話としてあった。œdipe神話が今も語られる
としたら、

古代ギリシャのソフォクレス版と、今様を重ね合
わせることが可能となる。ここからレヴィスト
ロース独自の神話展開が始まる。

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

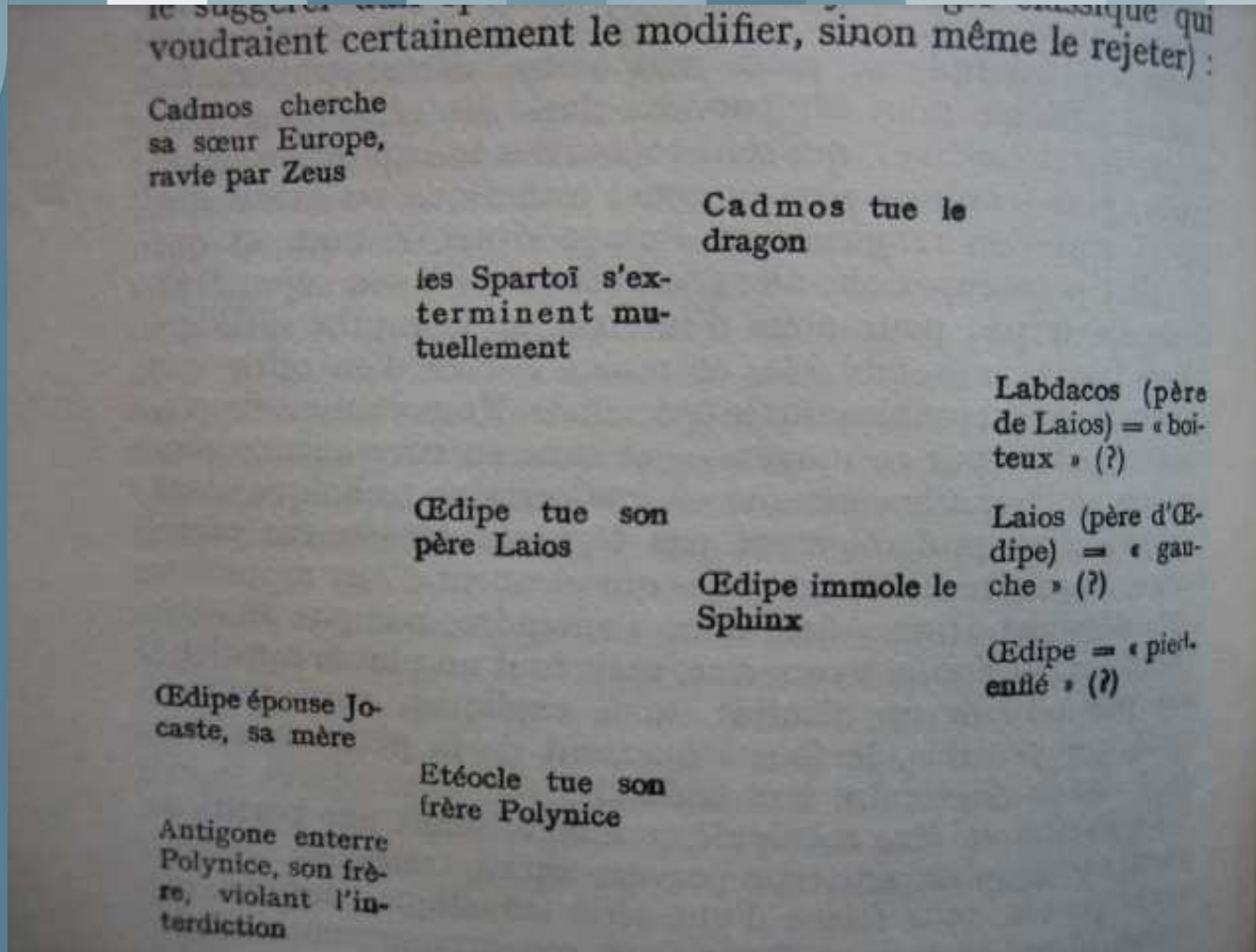


図 カドモス・オイデプス神話を人の由来を核に分解している。

左端コラムは「近すぎる近親関係」「人は女の股から生まれるの世界」

右端コラムは「人は大地から生まれる」「近親関係の疎遠」

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
 構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

女から生まれる ← 近親の接近は密 出来事 → 砂から生まれる 近親の接近は疎

カドモスは妹エウロペを
救いに旅立

カドモスは竜を殺す

スパルタイが殺し
合う

カドモスがもうけた子
らは早死する

カドモスは蛇に変身洞窟
に引き籠る

因果

オイデプスが父ラ
イオスを殺す

ラドコス（ライオスの
父）《boiteux》足悪い

ライオス（オイデプスの
父）はガニ股

オイデプスがスフィン
クスを死に追い込む

オイデプスは膨れた足

オイデプスが母ジョカス
タを娶る

エテオクルは兄ポ
リニスを殺す

アンチゴニが禁止を破っ
て兄を葬る

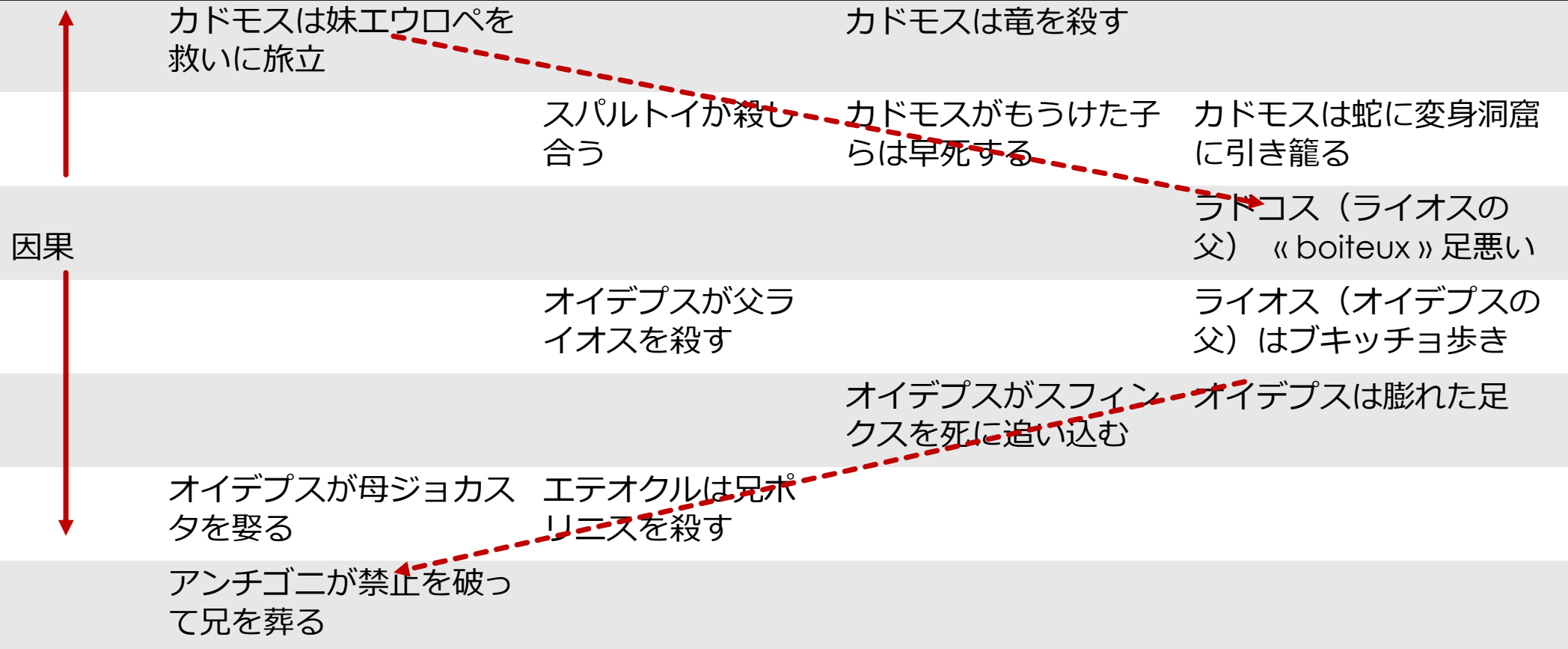
左端と右端の柱は相容れない (Contradictoire) 結界を表す。

左端の柱は « rapports de parenté sur-estimés » 近親関係が近すぎる、筋道を探り上げると ; 拐かされた妹エウロペーをカドモスが探す。状況からゼウス (牡牛の遣い手、本人) が拐った背景が浮かび上がる。探しようが無い「近すぎる近親関係」の動機カドモスは勇んで搜索に出る。エディプスが母イオカステを娶るはその最たる結末。アンティゴネーが、兄ポリュネイケースを葬るも「近すぎる近親関係」

右端の柱は近親関係の否定。同時に « les hommes naissent de la Terre » 男は「大地から生まれる」を暗示。右端の柱は固有名詞のみで構成される。レヴィストロースの意図は固有名詞そのものにtrait特質があるとする。歩きの不器用さ、これら男 (王) の大地出自が証明されるとしている。

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
 構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

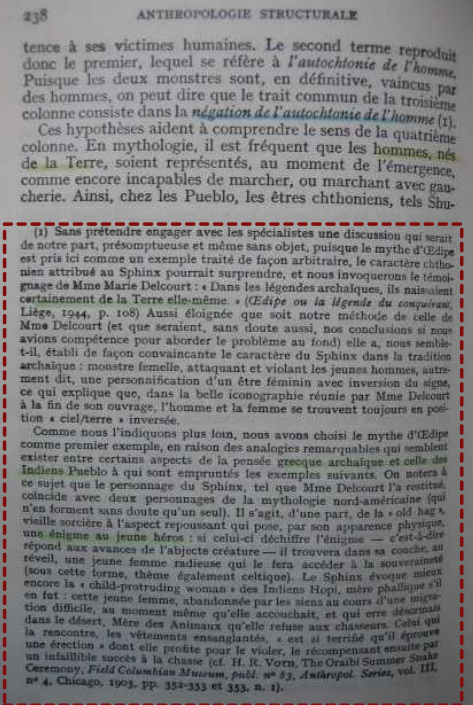
女から生まれる ← 近親の接近は密 出来事 → 砂から生まれる 近親の接近は疎



「男は大地から」は突拍子もない説に聞こえるが、レヴィストロースの創作ではない。238頁の脚注でギリシャ神話専門のMarie Delcourt女史の説を解説している。《 Dans les légendes archaïques, ils (hommes) naissent certainement de la Terre elle-même 》 古代伝説では男は大地から生まれる。これは古代に広く流布していた信心としている。

脚注の一文節を引用 《 Des analogies remarquables qui semblent exister entre certains aspects de la pensée grecque archaïque et celle des Indiens Pueblo à qui sont empruntés les exemples suivants 》 幾つかの神話要素において古代ギリシャとプエブロインディアン相似には驚かされる。それらは次に引用する例で傍証できる。

このあとスフィンクスと老野ブタ（主人公に謎かけする）、児を突き出した女、移住の途中に捨てられた女などの例を出している。右は本書238頁と下部の相当に長い脚注。レヴィストロースとして大地生まれを論証したかったためと受け止める（部族民）



人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

左2列めの柱 ; 地から湧き出た兵士達 (スパルティ) は互いに殺し合って5人だけが生き残る。テーベを建設するカドモスに協力する。

エディプスは父ライオスを殺す。ポリュネイケースは兄エテオクレースに殺される。これら出来事は「母から生まれ」を肯定する。

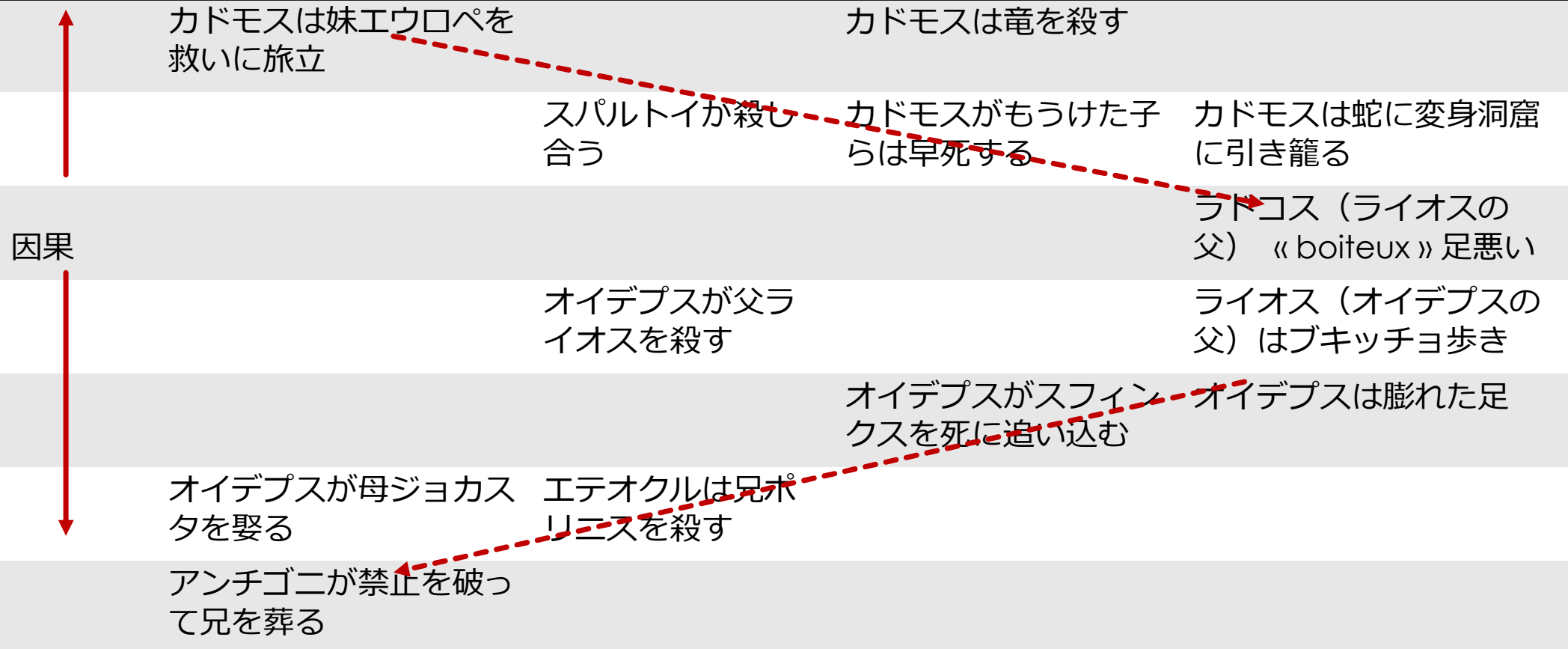
右二列目の柱 ; 大地生まれの障害となる怪物を殺し、男の大地出自を安堵する試練と見る。重要な狂言回しを演じる怪物 (ドラゴン、スパルティ、スフィンクス) にも大地との関連を指摘する。表の縦の流れと横の展開が意味するところは ;

カドモスは母から生まれ、大地に帰る (最後は洞穴の蛇に変身する)

エディプスは大地から生まれ母に戻る

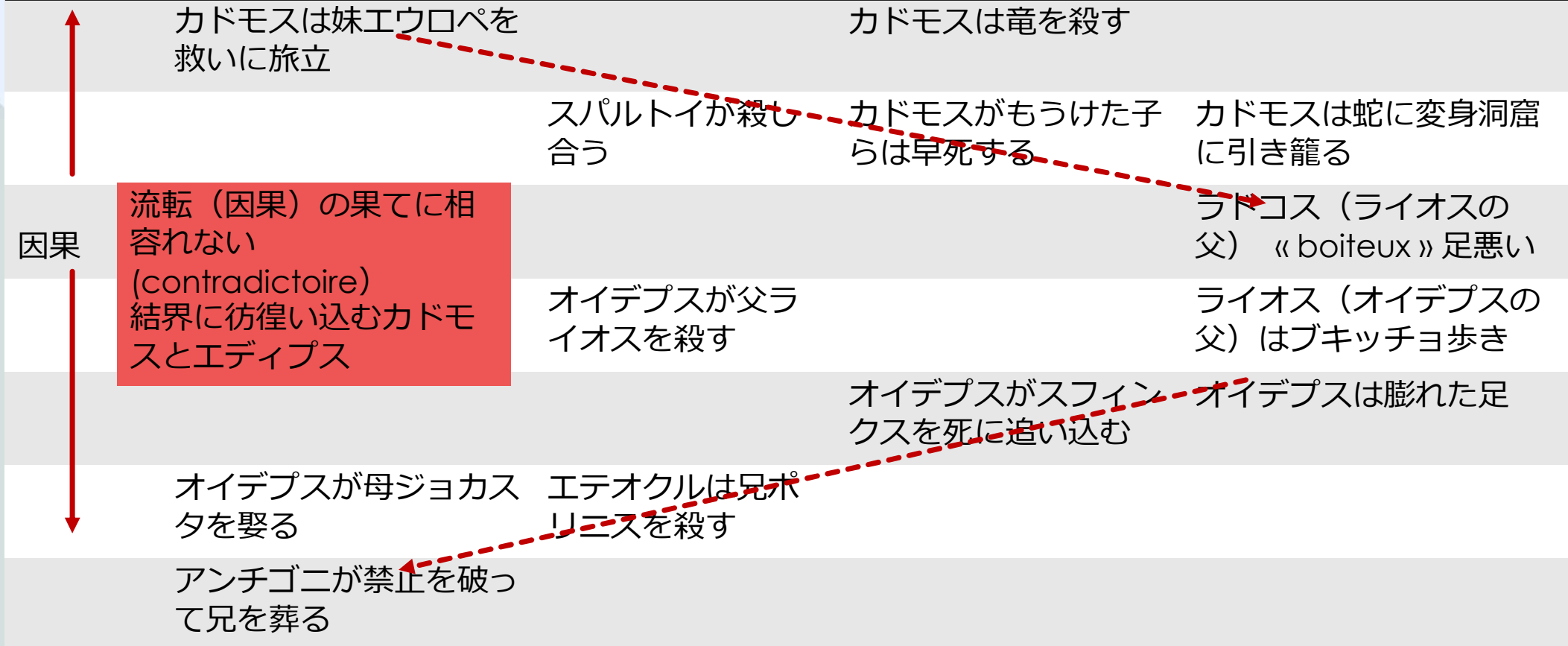
人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
 構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

女から生まれる ← 近親の接近は密 出来事 → 砂から生まれる 近親の接近は疎



人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
 構造人類学AntropologieStructuraleの紹介

女から生まれる ← 近親の接近は密 出来事 → 砂から生まれる 近親の接近は疎



神話の構造

« Contradictoire » 対立

« Causalité » 因果

« Mésaventure » 苦難

人の生まれの由来 砂に湧いたか女の股か オイデプス神話
構造人類学AntropologieStructuraleの紹介 2

« Ce principe est bien illustré par notre interprétation du mythe d'Œdipe qui peut s'appuyer sur la formation freudienne, et lui est certainement applicable. Le problème posé par Freud en termes « œdipiens » n'est sans doute plus celui d'alternative entre autochtonie et reproduction bi-sexuée » (240頁)

これを基本とすると我々のエディプス神話解釈（人の生まれは砂の芥か女の股か = 部族民）はフロイトの説明と重なり合うし、きっとその趣旨で応用可能であろう。

さらにはフロイトが「エディプスコンプレックス」として提唱した課題は、もはや砂か女かを超えている。

« Mais il s'agit toujours comprendre comment un peut naître de deux : comment se fait-il que nous n'ayons pas un seul géniteur, mais une mère, et un père en plus ? » (同)

一人男がなぜ二人から生まれるのか、それを如何にして理解するか、一人の種ではなく母と父の種で生まれるか—なぜそんなことが起こるのかが課題なのだ。

« Nait-on d'un seul, ou bien de deux ? — et le problème dérivé qu'on peut approximativement formuler : le même naît-il du même, ou de l'autre ? »
(239頁)

人は一人から生まれるのか、二人からか。この問題は絶妙の近似具合で以下に公式化される、人は己から生まれるのか、他者からか？

« On n'hésitera pas donc à ranger Freud, après Sophocle,
au nombre de nos source du mythe d'Œdipe »

エディプス神話の資料としてソフォクレスに続いてフロイトを採り上げる、ここに躊躇はない。(240頁)

人の由来は
砂か女か

2の出自

《 équivocité 》

レヴィストロース著
構造人類学Anthropologie
Structurale 神話の構造
人の由来 了

オイデプス神話
生まれの始まりは
たか女の股か

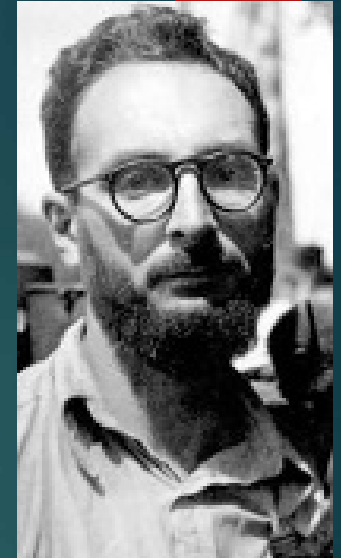
ヒトの生
砂に湧い



部族民通信 人類学講座 レヴィストロースを読む

構造人類学
Anthropologie Structurale

渡来部須万男
ホームページ WWW.tribesman.net



Claude Lévi-Strauss
1909~2009
(Bororo族調査時、1936年)



部族民通信 人類学 Youtube講座

2022年10月~23年7月期